

中津川市総合計画審議会
第3回 教育・文化スポーツ・福祉・医療部会要旨

平成25年10月11日（金）

午後1時33分開会

部会長あいさつ

1. 行政からの提出資料の審議

（加藤 出部会長） 先に配布された①の資料の説明をお願いします。

～事務局 資料説明～

（加藤 出部会長） 意見があればお願いします。

～意見なし～

（加藤 出部会長） ②について説明願います。

～事務局 資料説明～

（加藤 出部会長） 意見があればお願いします。

（小池委員） 問題点はそれなりにまとめられている。反省については抽象的で甘い言葉が使っている、素直に認めることが大事だと思う。

（安藤広子委員） ファミリー・サポート・センターについて、これは高齢者支援の分は入っていないか。

（木村企画財務課長） 評価が子育て支援の充実の分類に入っているので、その中での評価です。

（丸山輝城委員） 委員が出した将来都市像は、いろんな考え方があるから、委員が所属している部会の中に入れておいてほしかった。筆者の承認を得ずに勝手に判断してもらっては困る。

今までの総合計画は乱暴に作られてきた。第3次総合計画は平成2年2月8日に諮問して、平成2年2月23日に答申されている。第4次総合計画は平成12年12月5日に諮問されて翌年の1月25日に答申されている。このことを踏まえて質問をしたい。

評価がビジョンから入らずに個別問題から入っている。マクロから入って個別評価をしないと全体の評価と分析ができない。

総合計画の部会なので細かくやらないといけないが、大枠で評価することも大切である。

現構想は中期ビジョンがないが、ビジョン形成が今の教育委員会にもない。

（安藤広子委員） これは行政サイドの考え方で、教育も福祉も連携して市民に戻す表現の仕方をしてほしい。

（丸山輝城委員） 部局から入ってきていて計画から入ってきていない。

(木村企画財務課長) わかりやすくするために部課を記載していますが、総合計画の柱、大分類、中分類の順番で評価をしています。行政の部課で分けているのではなく、体系で分けています。

(丸山輝城委員) 一番左に部課が書いてあるので、いちばん右に書いておけばいいのではないかという話。

一昨日も県へ行ってきたが、何で12年かと聞かれた。普通は10年である。

(加藤 出部会長) リニアの開業1年前に合わせたと聞いた。ふつうは概ね10年だが、リニアの開業に合わせたまちづくりをしていきたいとのことなので、それはそれでいいと思う。

教育委員会のビジョンは、学校教育と社会教育の計画は中津川市にはあると思うが。

(丸山輝城委員) なんでもそうだが10年目標を作らずに3年目標でやっていてビジョンがないということ。

(加藤 出部会長) これをどう生かすかが③に資料になるので、③の資料を説明願います。

(木村企画財務課長) お断りですが、これはあくまでも行政側からの素材を提出したという捉え方をしていただきたいと思います。各部レベルで取りまとめたもので、市長が了解しているものではなく、公式資料ではないという取り扱いをお願いします。審議会で審議されて内容が変わっていくものという理解をお願いします。また、アンケート、グループインタビューの内容は反映させていませんのでお願いします。

～資料について説明する～

(加藤 出部会長) 意見があればお願いします。

(安藤広子委員) 自己肯定感のない子に学力向上は難しく、これは家庭教育力の低下が原因だが、家庭教育は生涯学習スポーツ課でやっているの、教育委員会の学校、幼稚園と連携が取りにくくなった。家庭教育について教育委員会と連携を取るのが課題。

(田島副部会長) 合併前は教育委員会の中に生涯学習と文化スポーツがあったが、合併で市長部局に持っていかれた。教育委員会は子どもの教育だけに集中できるようにされてしまった。生涯学習や家庭と連携が取れなくなっているのは事実。

(安藤広子委員) 12の公民館が0から3歳児までの家庭教育学級をやっているが、今でも県は教育委員会でやっている。中津川市と多治見市は市長部局で、他は連携できている。

(田島副部会長) 流れは反対で、中津川市に視察に来て取り入れているところがある。連携については、市の伝統で部局の全部が連携取れていない。これが課題。

(加藤 出部会長) そこは大きな課題だが、組織改革のときにやるべきもので、ここに盛り込むわけにはいかない。市長部局と教育委員会部局の連携が課題だということで、「家庭教育については、市長部局と教育委員会が連携をする」ということで。

- (小池委員) 幼児教育、学校教育と家庭教育が離れているのは、親の責任もあるので機構が悪いからこうなったとは思わないが、教育的なものでいくと、先生方と市長部局との連携も切り離しているのでもうまくいっていない気もする。
家庭教育の低下は、協力しない、関心がないから出てきてくれない保護者がかなり問題を抱えている。このことを専門の教育委員会で考えてもらうには機構改革を含めて、基に戻すなりという提言が必要かもしれない。
- (安藤広子委員) 保護者は学校の言うことは聞くが、民生委員や社会教育が言っても関心がない。危機感がない。
- (小池委員) もとは小さいが広げていくと非常に重大なことだと思う。教育の低下はそこからずっと引っかかっている。
33ページの公民館は、このとおりだと思う。公民館は15地区ありそれぞれの特徴がある。公民館の充実を図ることは非常に重要なこと。34ページの地域図書館の充実、それぞれの地域図書館の充実をお願いしたいし学校図書館の充実もお願いしたい。
- (田島副部長) 図書館問題が起きたときから、学校図書館の充実と充足率の話が出て、充足率100%という目標だが、古い本も入れて100%という言い方をして充実を図っている。古い本も入れてあと100%ということで、学校図書館はがんばって充実させているが、公民館図書室の充実、公民館図書室と中央図書館の連携が取りにくい状態なので、連携をとれるようにしていかにといけない。
- (加藤 出部会長) 旧町村は公民館に図書室があるが、旧中津川市の地域図書室はどこにあるかわからないくらいになっているので、そこは充実させないといけない。
- (安藤広子委員) 本と地域の人をつなげるコーディネーターが1週間に1回でも回ってもらえるといい。
- (小池委員) スポーツ振興で、1市民1スポーツの推進は大事だと思う。高齢者の軽スポーツの普及は、健康づくり、医療費の抑制の面からも非常に大事なこと。長野県は市町村でスポーツ施設を作って、そこに力を入れて、医療費抑制ではトップクラスになっている。まだ中津は遅れている。中津の高齢者はマレットゴルフ、グランドゴルフ、ペタングなどをやっているが、やっている人がまだ少ない。
1施設2千万円くらいでできるので、各地域に施設を作って1市民1スポーツ、生涯学習スポーツをやってもらえれば、非常に効果があると思う。
- (加藤 出部会長) 「高齢者の軽スポーツの普及のための環境整備」を加えてください。
国際交流について、中学生の国際交流事業が書いてあるが、引き続きやっていくか。
- (田島副部長) 非常に成果が上がりつつあるのでやってほしい。
- (安藤広子委員) 姉妹都市交流の関係は、課題に一部の市民に限られているとあるので、周知の仕方を考えてほしい。
- (加藤 出部会長) 山口は藤村の関係で小諸と大磯と交流があるが、地元だけの交流なので、もっと大きく市のスポーツ団体や文化団体の交流が促進できるという。

(丸山輝城委員) 国際交流は現状で良いと思う。小池元市長が民際外交という言葉が使われたが、これは長洲元神奈川県知事が最初に使った。それぞれの立場で民際交流を進めてもらうといいが、どういう交流がされているかつかんで集積してもらえるといい。

(加藤 出部会長) 姉妹都市、国内交流は、文化団体、スポーツ団体などいろんな団体があるので、そういう団体が積極的に交流を図ると意味が出てくる。

(丸山輝城委員) ぜひ集積をお願いしたい。スポーツに戻るが、野球場の芝生が傷むから使ってはだめだとか聞いたが、もっと使えるようにするにはどうすべきかを考えるべき。

(安藤広子委員) 作っても市民が使えない状況。税金を払っているのだから、そこを何とかすべき。

(丸山輝城委員) 施設の効果的活用をしてもらわないといけない。

(安藤広子委員) スポーツ施設利用者は減っているし、子供のスポーツ活動の人数も減っている。現状、競技至上主義のチームは施設を借りれるが、そうでないところは中学校のグラウンドでしかできない。1市民1スポーツで施設を公平に、誰でもいろんな施設を使えるようなことを考えてほしい。競技性も大事だが健康増進、コミュニティづくりのスポーツの場を持てることも考えてほしい。

(加藤 出部会長) 乳幼児教育をお願いします。

(小池委員) 民生委員は高齢者等支援が中心だったが、子ども虐待の関係で4年ほど前から子育て支援も行っている。その中で感じるのは、待機児童ゼロを目指すこと。その中でいろんなことでお母さん方と話し合う機会があるが、公立と私立はそれぞれ良さがあるので共存し合うことが大事。私立に移管するという話も聞くが、片方だけではうまく活性化されない。それぞれの特徴を出してやっていくことを考えてもらう。

人口が減っているところは幼保一元化の中で考えていく。これからリニアのまちづくりを考えていく中で、状況によっては幼保一元化を先取りする。先進的な幼保一元化の取り組みをすれば、同じ施設で面倒をみれるので、そういうことも考えて検討してほしい。

公立と私立は、先生の質も含めて競争し合うことが大事。公立は年配の先生がおり、その人たちの知識をもって新任の先生を指導していくことができるので、そういうポジションの中でお互いに共有し、共存し合う体制を進めてほしい。現実に恵那市では両方あったほうがよかったと聞いている。

よそのまねをするのではなく、中津川市の教育ビジョンを含めて、子育て環境が良ければよそから転入してらえるので、そういう幼児教育を含めて教育環境を整えてほしい。

(田島副部会長) 子ども子育て会議で計画を作っているのは聞いているか。

(木村企画財務課長) 聞いています。

(田島副部会長) それは基本構想に入るのか。

(木村企画財務課長) 並行して入れることができれば入れますし、先に総合計画で考え方ができていて、そこからより細かく計画を作っていくということであればそれはそれでいいのではないかと思います。

(安藤広子委員) 学校教育について、学校規模の適正化は進めてほしい。

(加藤 出部会長) 学校がないところに若者は定住しないので、学校がないと地域は衰退していく。市ではUIターン住宅を建設したが、期待はしているがその成果がまだ出ていない。何とか学校が維持できる政策を考えてほしい。

(小池委員) 恵那市でも人口が少ないところで小学校を統合したら、一気に人口が減少した。過疎の地域の小学校がなくなるということは、一気に過疎化が進むので、市でどうしていくかが課題だと思う。入育てにはお金がかかって当然なので、人件費の問題ではない。過疎化と子ども教育力の両立が大事。

(加藤 出部会長) 地域医療について入ります。

(今井委員) 医師不足などの問題は、大きな日本の流れがあり、中津川市では解決できないなかなか難しい部分がある。

昨日、市民病院の安藤医師と話をしたときに、中津川市が名古屋大学に3千万円を出しているが、それは医者に来てもらうためではなく、名古屋大学総合医療科地域総合医療センターの研究テーマに地域医療を挙げてもらって、その研究の成果を出すためのお金だということだった。阿木、川上の診療所に2人の総合内科の医師が来ているが、その医師には市民病院が別に給料を支給していて、3千万円は研究費であって医者が増えるわけではないとのことだった。例えば安城更生病院は以前小児科医が5人しかいなかったが、今は20人いるそうである。それは他の診療科でも同じような状況で、小児科に20人の医師がいると保険点数が高いので20人いるとのことだった。ただ20人を超えても点数が同じなので、これからは20人を超えた医師は地方へ回ってくるのではないかと言っていたが、今は研修医制度が変わって飽和状態になる時代で、これからは中津川市にもそういう医師が回ってくる可能性があるということと、都会の医師のアンケートでは、田舎には行きたくないが、3年までだったら交代で来れるということだった。

国内では少しずつ変化しているので、今が一番最悪の時期だが、これから中津川市民病院の医師も増えるのではないかと言っていた。

市民病院で内分泌内科の医師がいなくなったが、名古屋大学の医局で内分泌内科の医師が産休で休んで急遽女性医師が足りなくなり、市民病院がゼロになったということで、女性医師が増えているというのも大きな問題だと言っていた。

(丸山輝城委員) 当局に問題意識が欠けていると思う。2つの公立病院があって独立企業体のようになっているが、これをどうしていくかを真剣に考えないといけない。一次医療と二次医療の関係をそれぞれの人たちがあまり知り得ていない。なんでも公立病院に行くというのであれば、開業医は元気に働けないまちなる。行政が一次医療と二次医療を啓蒙しないとけない。

2つの公立病院をホールディングカンパニーという形はよそでも例がある。そうすると人事権も采配もやりやすくなる。経営の健全化は簡単にはできないと思う。ある程度の赤字が出るのはやむを得ないと思うが、2つの公立病院がなくて多治見県病院へいったらどうなるのかということになる。啓蒙活動も大切だし、10年先をどうすべきか、その辺のことも踏まえて、町の開業医を私たちも守り通していけるようにしないといけない。将来ビジョンとしてどういう方向が望ましいか、両病院の統合は謳えないにしても、両病院のあり方を考えていくべきだということを記しておくことが大切だと思う。

(加藤 出部会長) 長野県の県立病院では独立法人化のほうにいて民間感覚でやっている。香川県の三豊総合病院では民間感覚でやって黒字になっている。

(今井委員) あれだけ患者が市民病院へ行っている赤字になるのは、開業医から見れば疑問。電子カルテは導入に7億円かかり、5年経つとソフトが変わるので5年ごとに7億円かかる。また、維持管理費が毎年5千万円かかるので、絶対赤字になる状況のようである。公立病院は親方日の丸的なところがあるが、なんとかすれば絶対黒字化できると思う。

(加藤 出部会長) 開業医の話は聞かないといけない。中津は脳外科の医師が院長をやっているからだめだと思う。やっぱり基本は内科の医師がやらないといけないという話をずっと聞いてきた。

(今井委員) 中津は脳外科ありきでずっときていたので、その伝統でなかなか変えられない。あとは透析が25台あるそうだが、医者がいないので月、水、金しかできない。毎日午前、午後やれば収益がかなり上がるのに、設備とスタッフがいるのに週に3回しかできない。根本的な医者不足がネックになっている。

(小池委員) 経営的には黒字になるのは難しいと思うが、両病院が両立できることを期待している。

(今井委員) 民間だと事務長がある一定の方向に向かってずっとやっていくが、市役所の職員は交代するので、そういうこともかなり大きいと思う。

(加藤 出部会長) 三豊総合病院の事務長は生え抜きで、院長に何でも相談できる環境にあった。

(今井委員) 本当に黒字化を考えるのであれば、いろんなノウハウがあると思うが、公務員なのでなかなか難しいと思う。

(加藤 出部会長) 文化振興に入ります。

(田島副部会長) 青邨記念館のあり方のところは美術館を建設してほしいということなのか。

(原 善一郎委員) 書き方がおかしい。美術館を造るならわかるが、整備はどこに整備するのか。あの場所にはもうできない。鑑賞者の減少とあるが、せっかく素晴らしい人材がみえるのに、このままなくなると、本当に鑑賞者がなくなる。もっとセキュリティのいいところで美術館なりを造らないとだめになる。

もう一つ苗木城の跡地活用、ふるさと歴史の広場とはどういう広場か。これは目標が苗木城の復元ではだめなのか。

(木村企画財務課長) 事務局でそこまで確認していないので、確認します。

(原 善一郎委員) 確認しなくてもいいが、苗木城復元ではだめなのか。

(丸山輝城委員) これは経済団体としての考え方だが、苗木城址は9割が市の土地で、1割が苗木財産区と関西電力の土地になっている。このビジョンの中に書き込むといろんな弊害が出てくるので、市民意識としてリニアの見える丘公園、経済団体として苗木城の復元化を提唱していこうと思っている。総合計画だから行政としての書き様はあると思う。

前田青邨記念館も熊谷守一記念館もほしいが、中身が問題で、中津川には下絵があるが絵がない。建物を造っても中身の目途をつけないといけない。

(原 善一郎委員) 現在活躍している人はかなりいるが展示する場所がない。今、にぎわいプラザで臨時的にやっているが、立派なところがあればそこでできる。

(丸山輝城委員) いろいろな施設はほしいがどうするのかという問題。

(安藤広子委員) 管理する職員がいるかどうかが問題。どこにポイントをもってその建物を活かせる職員を配置するか考えないといけない。行政はハコモノを造ってあとはできないから管理委託になってしまう。

(原 善一郎委員) 造れば管理費もかかる。お金さえ出せばできるが、そのお金が出せるかどうか。それはさておいて、これだけ立派な方がいるのに、このままでいいのかという問題がある。いずれは工夫しないと消えて行ってしまう。

(小池委員) 苗木城があれだけ脚光を浴びて桜のシーズンに人が来るようになったのは、地元の皆さんが桜を植えてきた歴史がある。市だけでは無理なところがあるので、官民一体で整備していく必要がある。

(丸山輝城委員) 中央道を造ろうと言った人が、国民1円1日貯金を提唱した。総国民1億人の時代に1億円ずつ集めていくと、財政投融资にお金が出るということからヒントを得て、リニアの見える丘公園は自動販売機のジュース1本で2円、25台の自動販売機で、7、8、9月で2万本売れたので4万円になった。中津川に自動販売機は2千台くらいあるので、そういう大きなお金になるから、リニアの見える丘公園と苗木城を進めていきましょう。

(原 善一郎委員) 中央道を走っていると、飯田方面へ走っていると塀に囲まれて中津川も恵那山も見えない。できたら透明にしてほしい。

(加藤 出部会長) 駒ヶ根から恵那までの市議会議長会で、透明化の運動をずっとしている。

(原 善一郎委員) そちらのほうでお願いします。

(加藤 出部会長) 課題に対する取り組み方針は、これから基本構想が決まってくると次は実施計画を作るので、そこでこころ辺りが出てくると思う。

(木村企画財務課長) 具体的な事業は、実施計画になります。

(加藤 出部会長) 少子化対策に入ります。

(小池委員) 人口が5年で4千人減る。これは大変重大な問題なので、子育てをしやすい環境を含めて、福祉のまちという部分を含めて少子化に歯止めをかける対策をしてほしい。この12年間で「子育てしやすい魅力的なまちづくり」を考えてほ

しい。里帰り出産もできないし地元でも大変なので、医師確保、個人病院との連携含めて医療の基本的計画を作ってほしい。

車に乗れないお母さんが検診に来るのに中津に来ないといけないがタクシーで来る。これは大変なことなので、家庭に負担がかからない対策を福祉面で考えていかないといけない。

(加藤 出部会長) 旧町村はそれぞれでやっている。保健ステーションがあるのでそこでやっている。

(安藤広子委員) 若者の出会いの場がない。相手を探す能力も備わっていないかもしれないが、結婚しないと子どもも増えない。

(田島副部会長) 中津で結婚相談員をやっているが、女性の方が選ばない。

(安藤広子委員) 昔やっていた公民館講座でうまく話ができればいい。

(加藤 出部会長) 昔のように世話焼きおばあさんがいなくなった。地域の力がなくなってきた。

(田島副部会長) 市役所の婚活イベントに市の職員で独身男女は出てこないといけない。

(安藤広子委員) それは強制的に出てこないといけない。結婚したり子どもができたなら、率先して市のほうで手当てを出してほしい。

(田島副部会長) 女性の晩婚化は、国全体の流れがあるのと、女性にしっかり力がついているから余計に合わない男性が多いという形になっている。

(加藤 出部会長) 12年後の人口はどのくらいを目標にしているのか。

(木村企画財務課長) 現段階ではまだそこまで出ていません。減っていくことは間違いないので、減る勾配をいかに緩やかにしていくかということになると思います。

(小池委員) リニアが開通して車両基地ができたとしてもそれほど人口は増えないと思う。子育てしやすい環境を作って魅力のあるまちにしないと住んでもらえないと思う。

母子家庭が多い。これは子どもの環境を含めてよくないことで、社会的な影響もあると思うが、しっかり学校教育の中で道徳的な教育も必要だと思う。

(加藤 出部会長) 高齢者福祉に入ります。ここでいう高齢者は65歳以上だと思うが、若い人は70歳以上が高齢者だと言っている。70歳にならないと老人クラブに入らないと言われるが、65歳から入って地域で活躍してほしい。

(小池委員) こういう時代なので、65歳の基準を上げる必要がある。地域によっては60歳から老人会に入っている。65歳まで働く時代なので、この定義を見直す必要もある。

高齢者の生きがいづくりは、それぞれ地域の特性があるので、公民館等を拠点にしながら生涯学習の中で力を入れてもらう。

(田島副部会長) 学校がなくなると初めて高齢者が自分の地域を大事にして、子どもに地域教育ができるという生きがいにつながるので、子育てから始まって高齢者福祉まで一貫してつながっていないとだめだが、あちこちでばらばらにやっているから目先のことしか見えない。

(安藤広子委員) 各課でやるのではなくて連携して考えてほしい。

(加藤 出部会長) 地域で一番大切なのは公民館だが、今、公民館長は非常勤で、1、2年で交代している。公民館活動は、5年、10年というある程度長い年数をやらないと成果が出ない。

(小池委員) 介護の発症予防、認知症予防はスポーツが大事で、集まってしゃべるだけでも脳の活性化になるので、そういう予防対策にお金を使ってほしい。
地域の見守りと在宅支援は、行政も現実には人件費抑制で大変だと思うので、それぞれ特性のある地域コミュニティの力で、区長会や民生委員、福祉協力員等と連携、協働して実施したほうが定着する。諸々の人たちと支え合うような体制、組織づくりをしていく必要がある。それは災害時の要援護者の支援体制と一緒。

2. 将来像のまとめ方について

(加藤 出部会長) 次回将来都市像をまとめないといけない。今まで話し合ったことの中から中津川市の将来都市像を文章化しないといけないので、まとめていくためのキーワードを出していただいて、それを事務局で素案を作って第4回目に決定していきたい。

～日程調整を行う～

(木村企画財務課長) まとめの手続きがありますので、10月16日までにキーワードを教えてくださいとありがたいです。

(原 善一郎委員) ファックスでもメールでもいいか。

(木村企画財務課長) はい。

(加藤 出部会長) 欠席者と早退の委員への連絡は事務局で文書を出すようにお願いします。
いろいろと課題があるが、だんだん見えてきたので、最後のキーワードと将来都市像を出していただいて、それをまとめて作ってもらうので、それを審議して決定していきたいと思います。

午後4時06分 閉会

平成25年12月2日

教育・文化・スポーツ・福祉・医療部会

会長 加藤 出